

## 力強く、繊細に

毎週水曜日、本館2階の作法室で行われている箏曲部の練習を6月7日（水）に見学に行きました。ときには凜として力強く、ときには繊細でやわらかな音色を響かせる「箏」（こと）。

日本ならではの四季折々のイベントや、正月、結婚式といった祭事でも、箏の演奏風景はお馴染みです。箏の音色が創り出す優美な世界観。箏は13本の絃を持つのが一般的で、可動式の柱（じ）を使って音の高さを調整するのが最大の特徴。

演奏は、「箏爪」（ことづめ）と呼ばれる爪を右手の親指、人差し指、中指に付けて絃を弾くスタイル。箏爪は、象牙やプラスチックといった素材が主流です。**流派により形が異なるのも特徴で、生田流は角爪と呼ばれる四角い形、山田流は丸爪と呼ばれる先が尖った形。（ちなみに本校は生田流です。）**主に演奏するのは右手ですが、左手で絃を押さえることで音の高さを変えたり、音に余韻を出したりとバリエーションを付けられます。

奈良時代に中国の唐から伝来した箏は、枕草子や源氏物語、平家物語といった古典文学にもたびたび登場します。

そんな箏の演奏に励む本校箏曲部のメンバーは、高校から箏を始めたそうで、**箏曲部入部の動機を聞いてみると、主なものとしては「何か新しいことを始めたかった」「クラブ紹介が良かったので」「和室の雰囲気が好きだから」「音楽が好きだから」「部員の人たちの雰囲気が良かった」「弾いていた曲（アンパンマン）が良かった」とのことでした。**この日も外部から来ていただいている技術指導の先生の熱心なご指導のもと、全員で懸命にディズニーのメドレーなどを弾いていました。

**国際社会で活躍する真の国際人になるためには箏のような自国の文化を理解することが重要な役割を果たします。自国の文化を理解し尊重することは、異なる背景や価値観を持つ人々の国の文化を尊重し受け入れる事にもつながるため、より豊かな異文化交流が生まれ、相互理解が深まります。**多くの市尼生が、日本の様々な伝統文化にふれ、理解を深め、本校のスクールポリシーにある「**国際社会で通用するリーダーシップ**」の基礎を身につけてほしいと思います。









